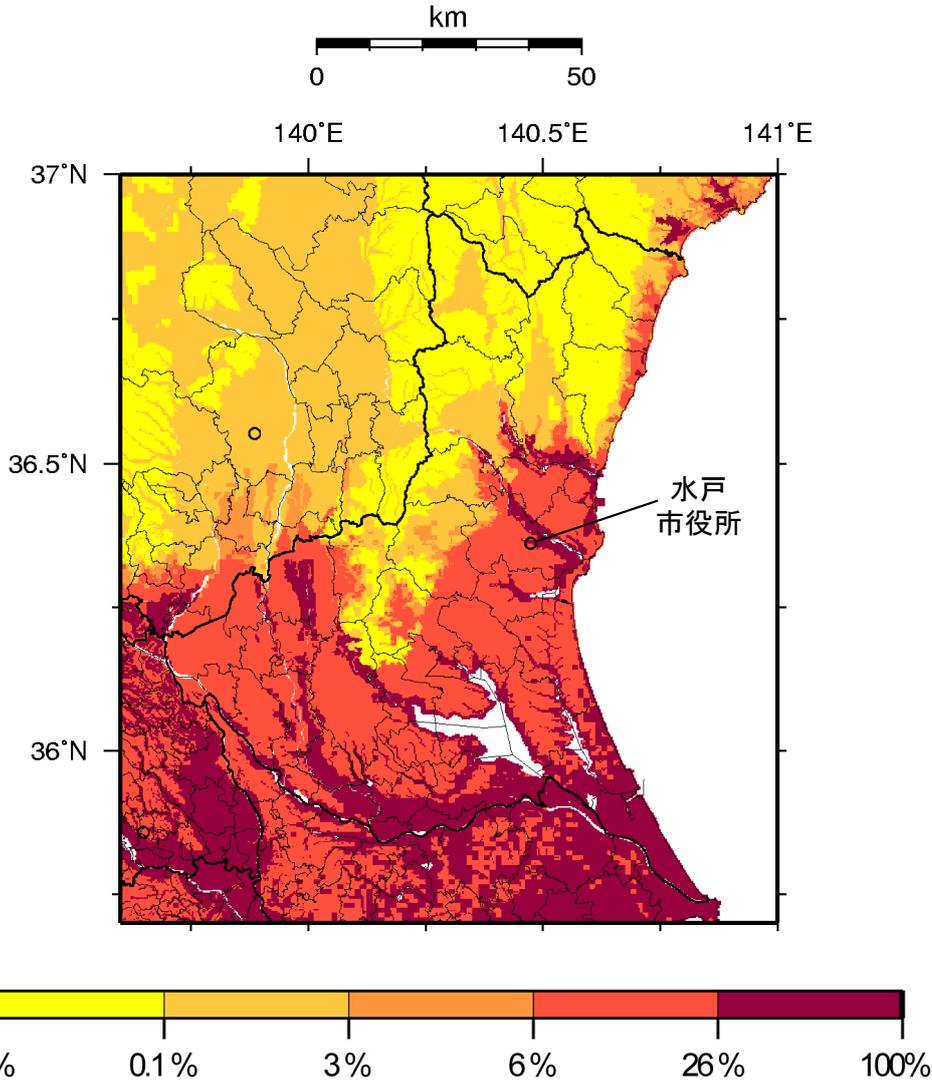


# 茨城県



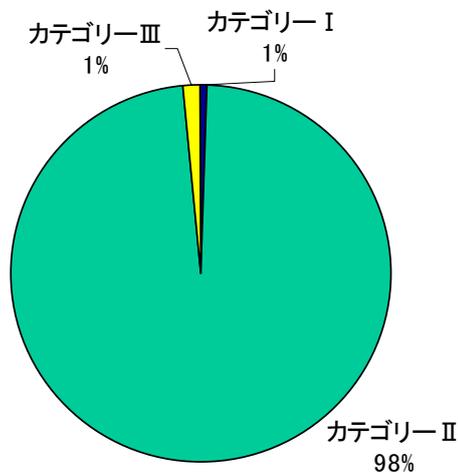
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

## 地図概況

北部の山地（八溝山地など）に比べると、沿岸の平野部や関東平野、その中でも特に河川・湖沼沿いの低地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

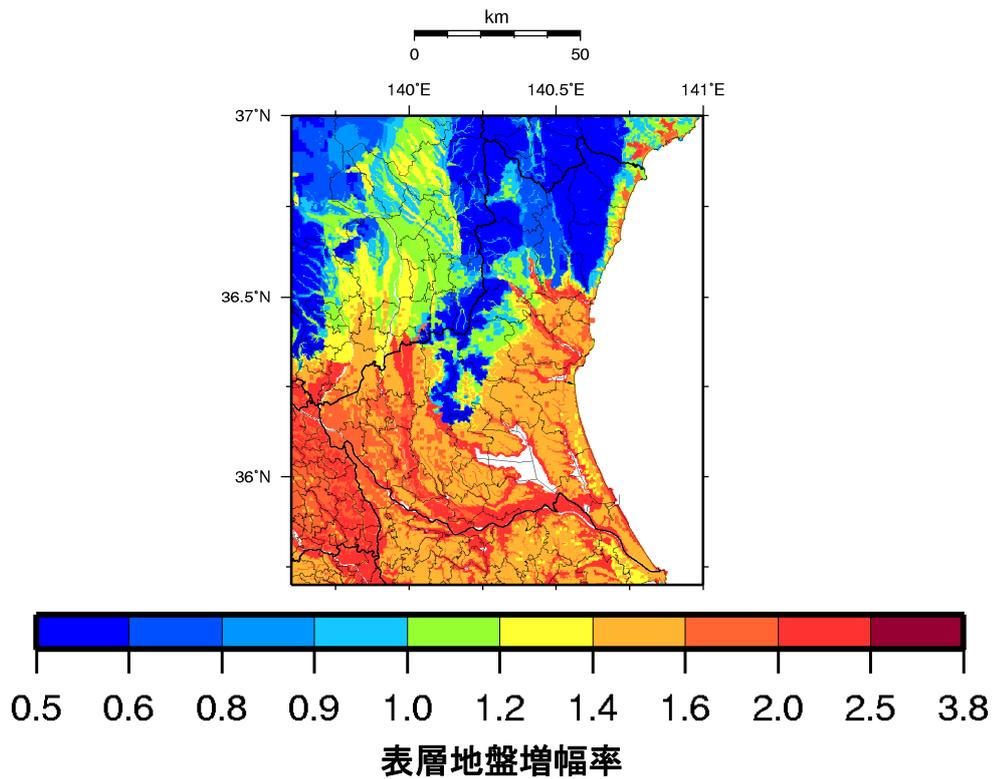
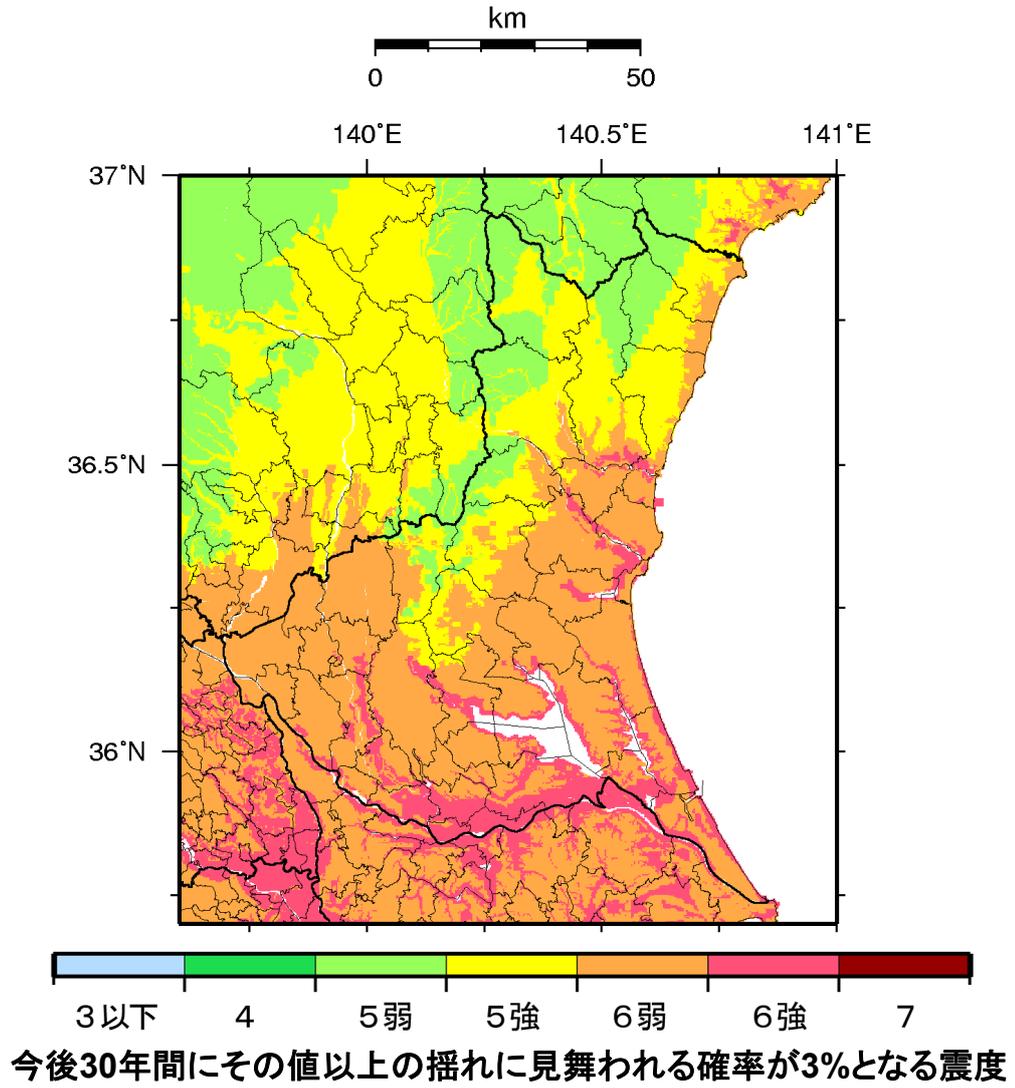
**水戸市役所：高い。**

カテゴリⅡの地震の影響度が最も高く支配的です。主に、沈み込む太平洋プレートのプレート内およびプレート間の震源を予め特定しにくい地震によると考えられます。南関東で発生するマグニチュード7程度の地震の影響も見られます。

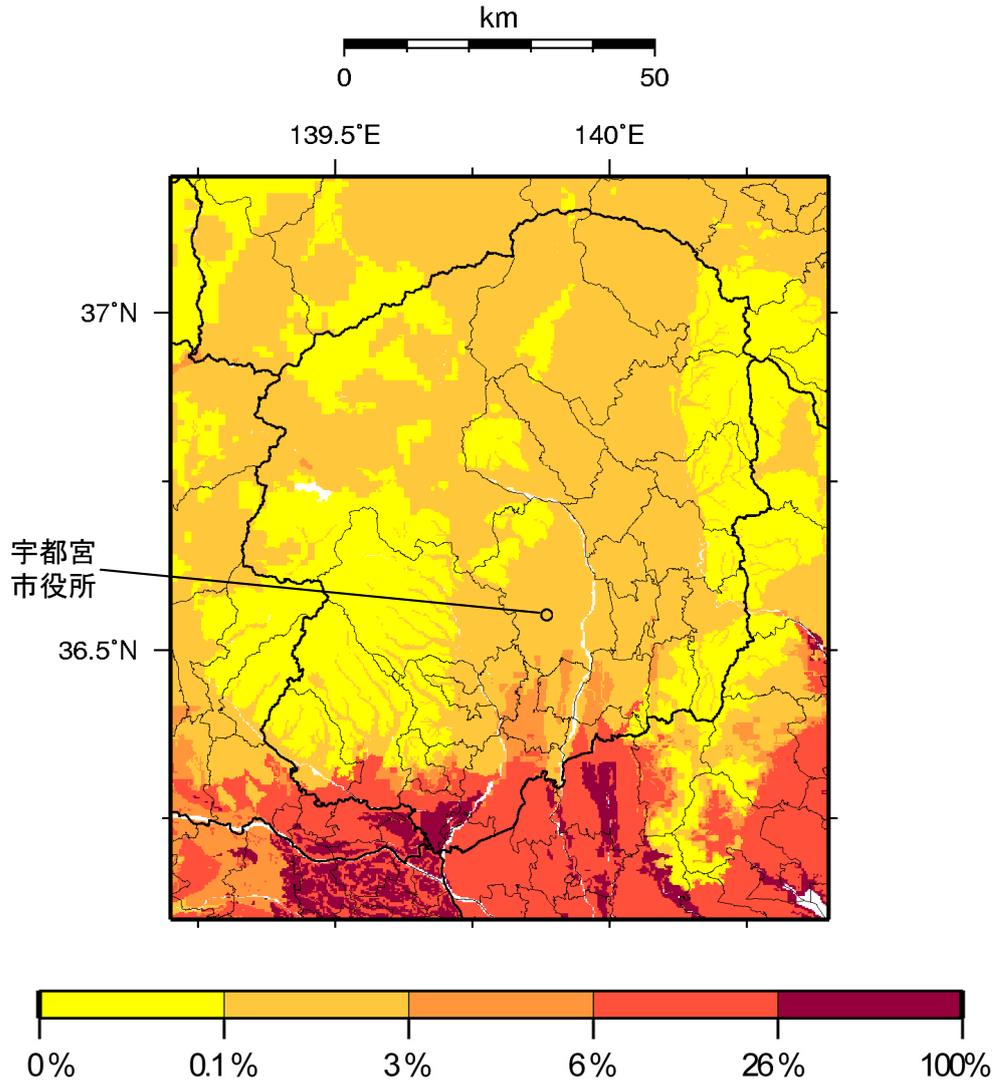


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

水戸市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



# 栃木県



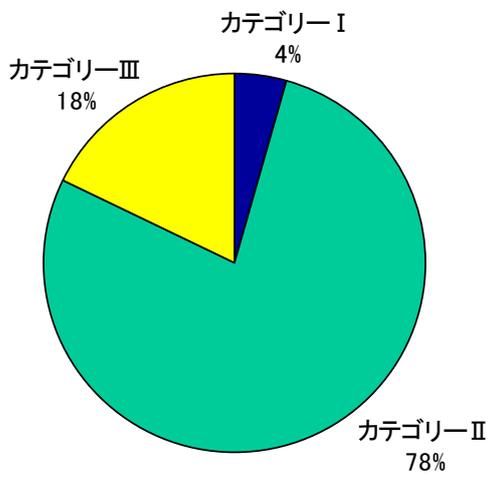
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

## 地図概況

東部や西部の山地（八溝山地、足尾山地など）に比べると、中央部から南部にかけての関東平野や河川・湖沼沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。県内の関東平野では南ほど地盤増幅率が高くなる傾向があります。

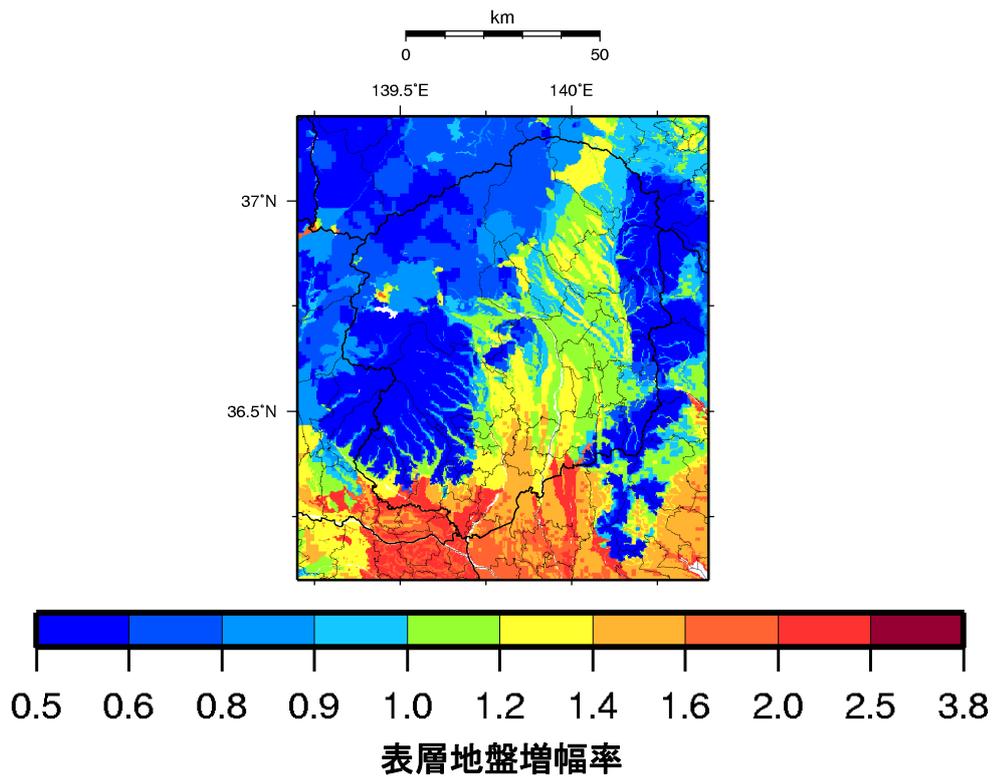
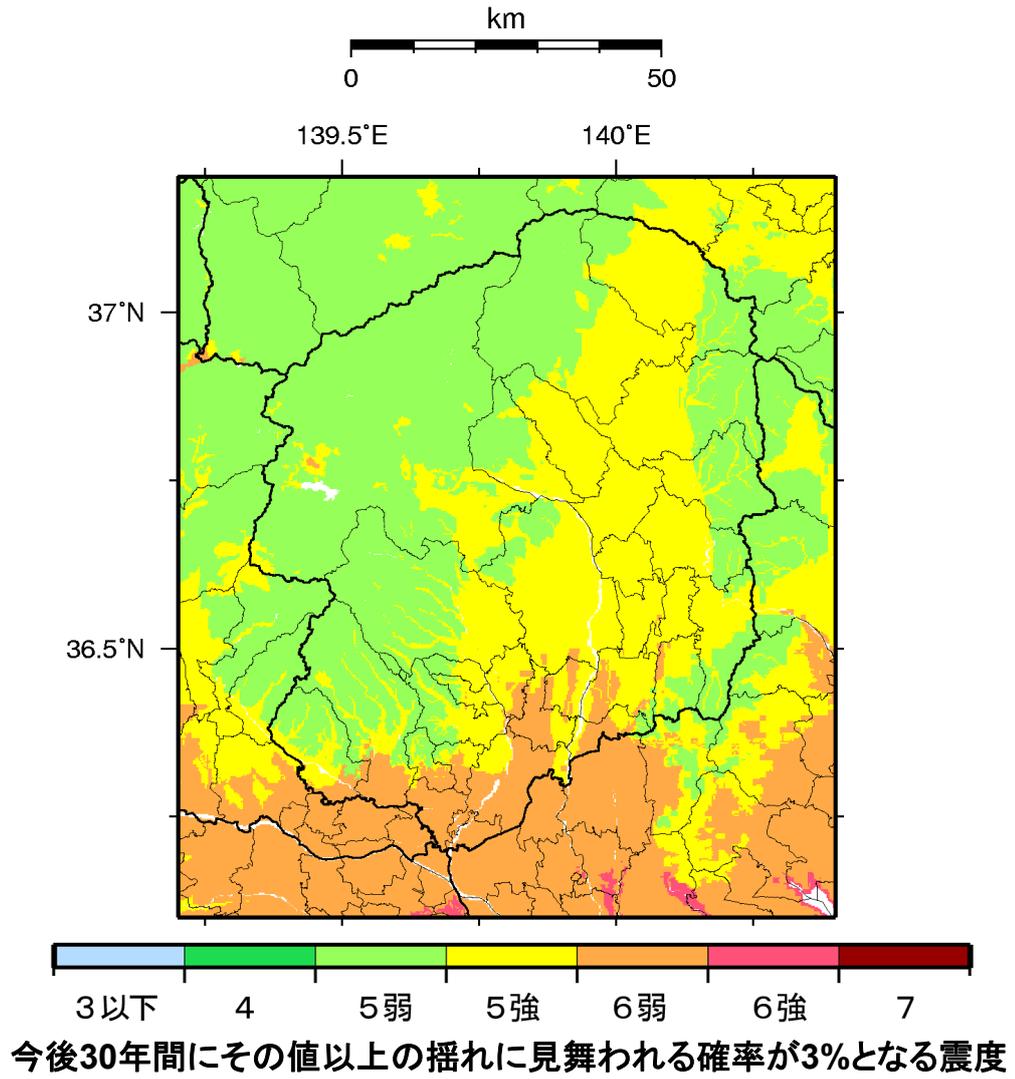
宇都宮市役所：やや高い。

カテゴリーⅡの地震の影響度が最も高くなっています。南関東で発生するマグニチュード7程度の地震や、沈み込む太平洋プレート内の震源を予め特定しにくい地震の影響と考えられます。また、活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響も見られます。

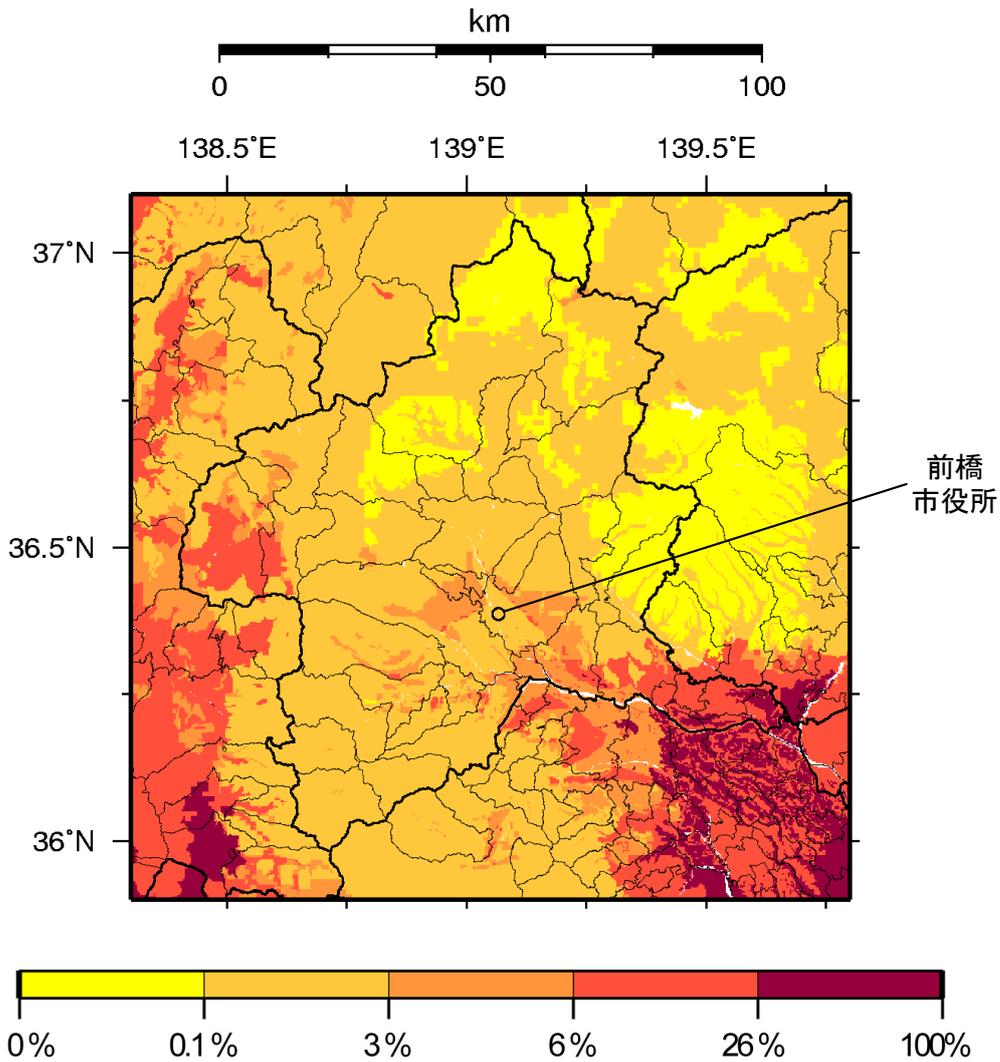


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

宇都宮市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



# 群馬県



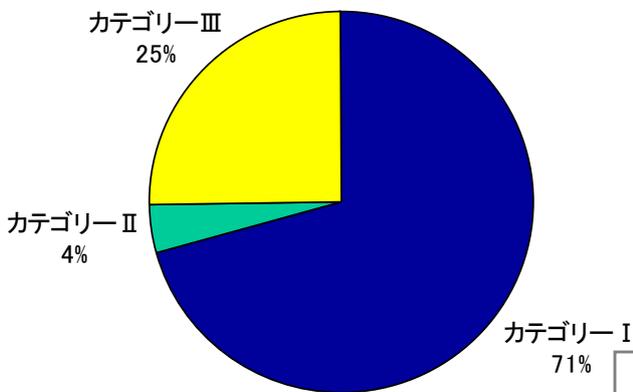
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

## 地図概況

北部から西部にかけての山地に比べると、山間の盆地や河川・沼地沿い、更には南東部の関東平野では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きい傾向にあります。また、県の南側では、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響も大きくなります。

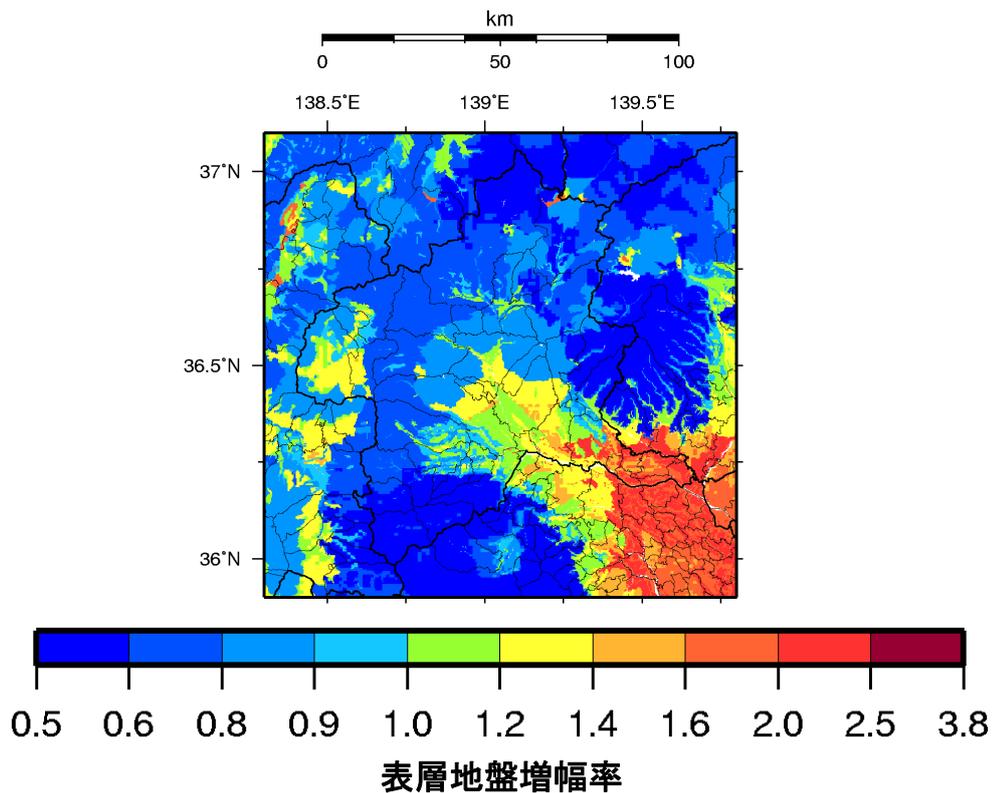
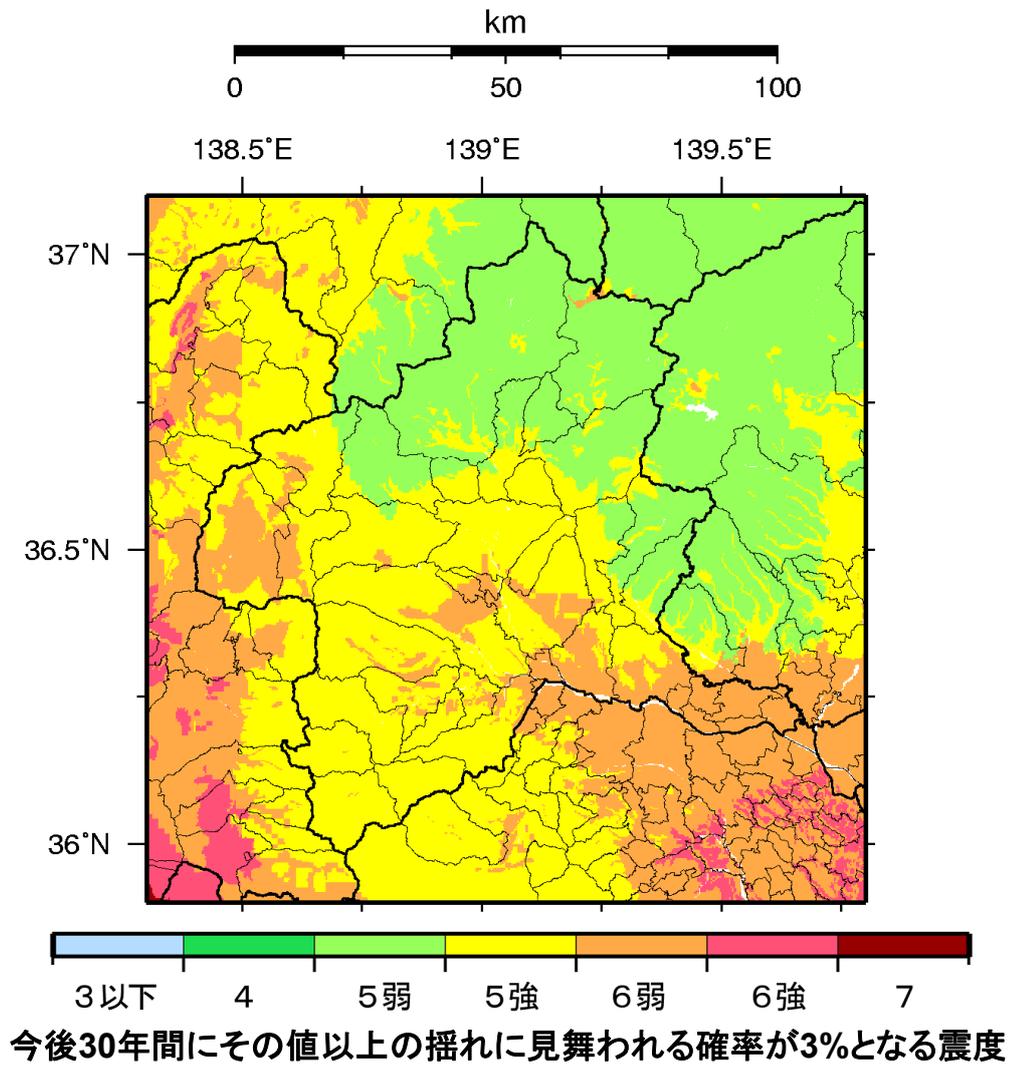
**前橋市役所：やや高い。**

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響度が最も高くなっています。活断層が特定されていない場所で発生する地震や、関東平野北西縁断層帯などの主要活断層帯の地震(ともにカテゴリーⅢ)の影響も見られます。



カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

前橋市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



# 埼玉県

km

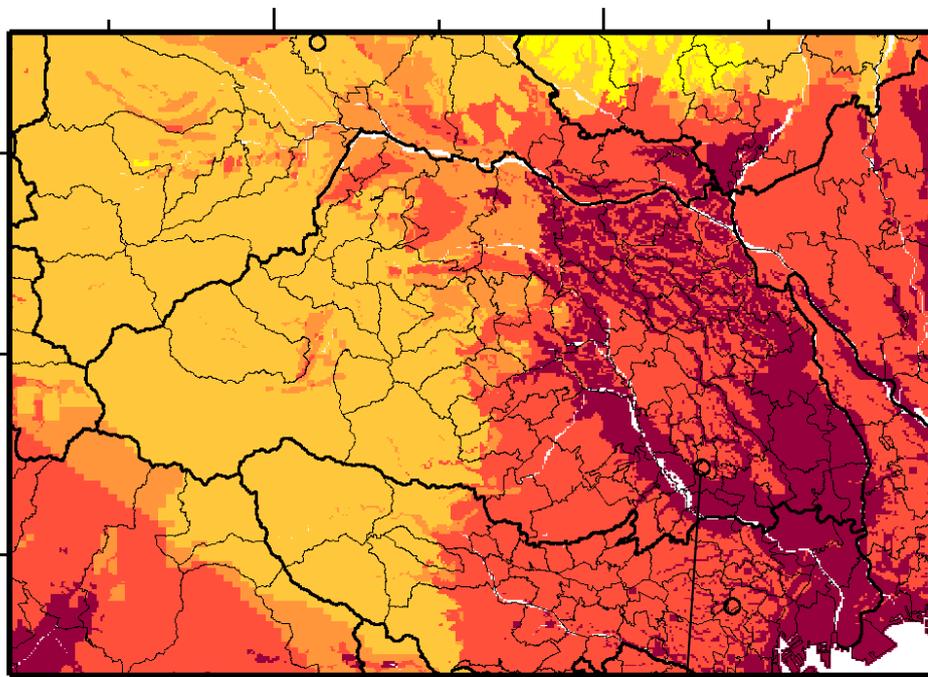


139°E

139.5°E

140°E

36°N



さいたま市役所



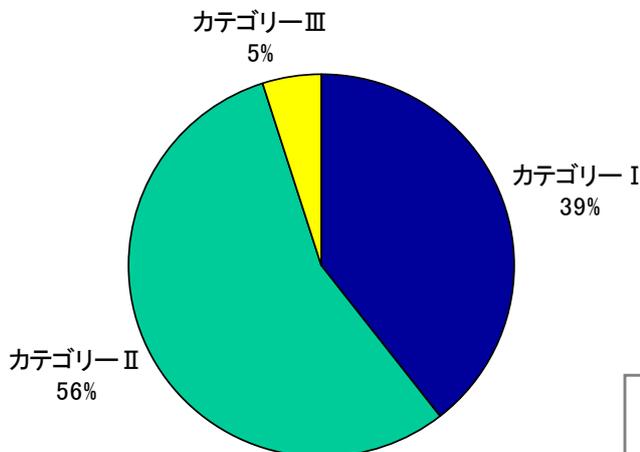
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

## 地図概況

西部の山地（関東山地）に比べると、東部の関東平野、その中でも特に河川沿いの低地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

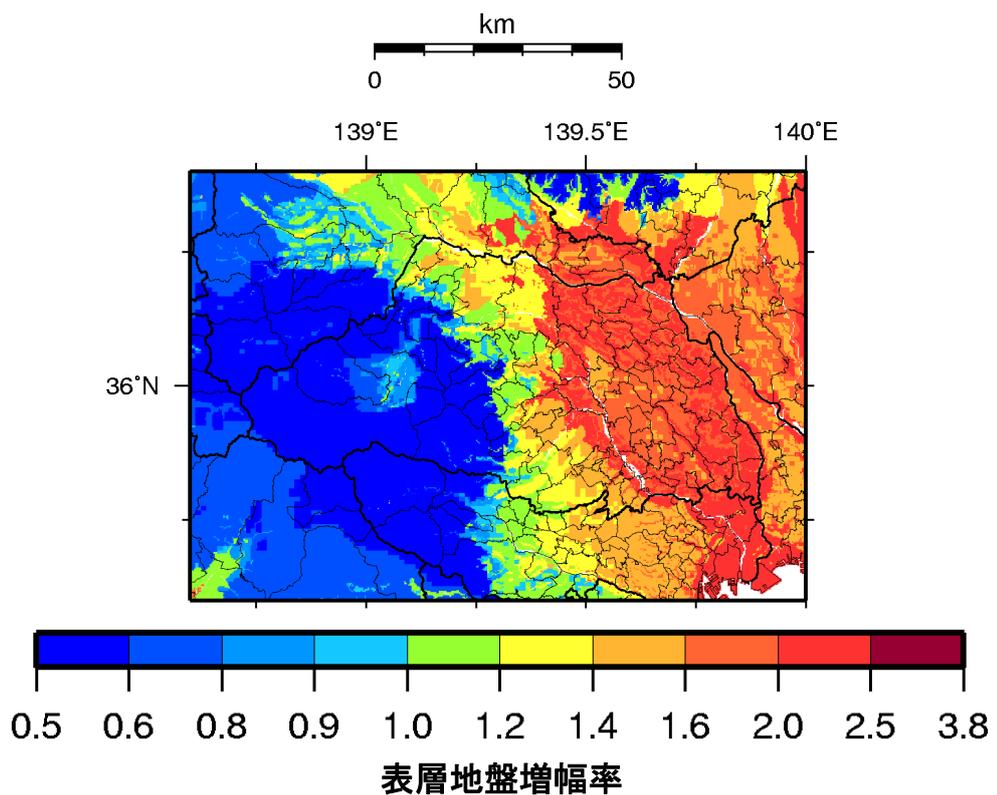
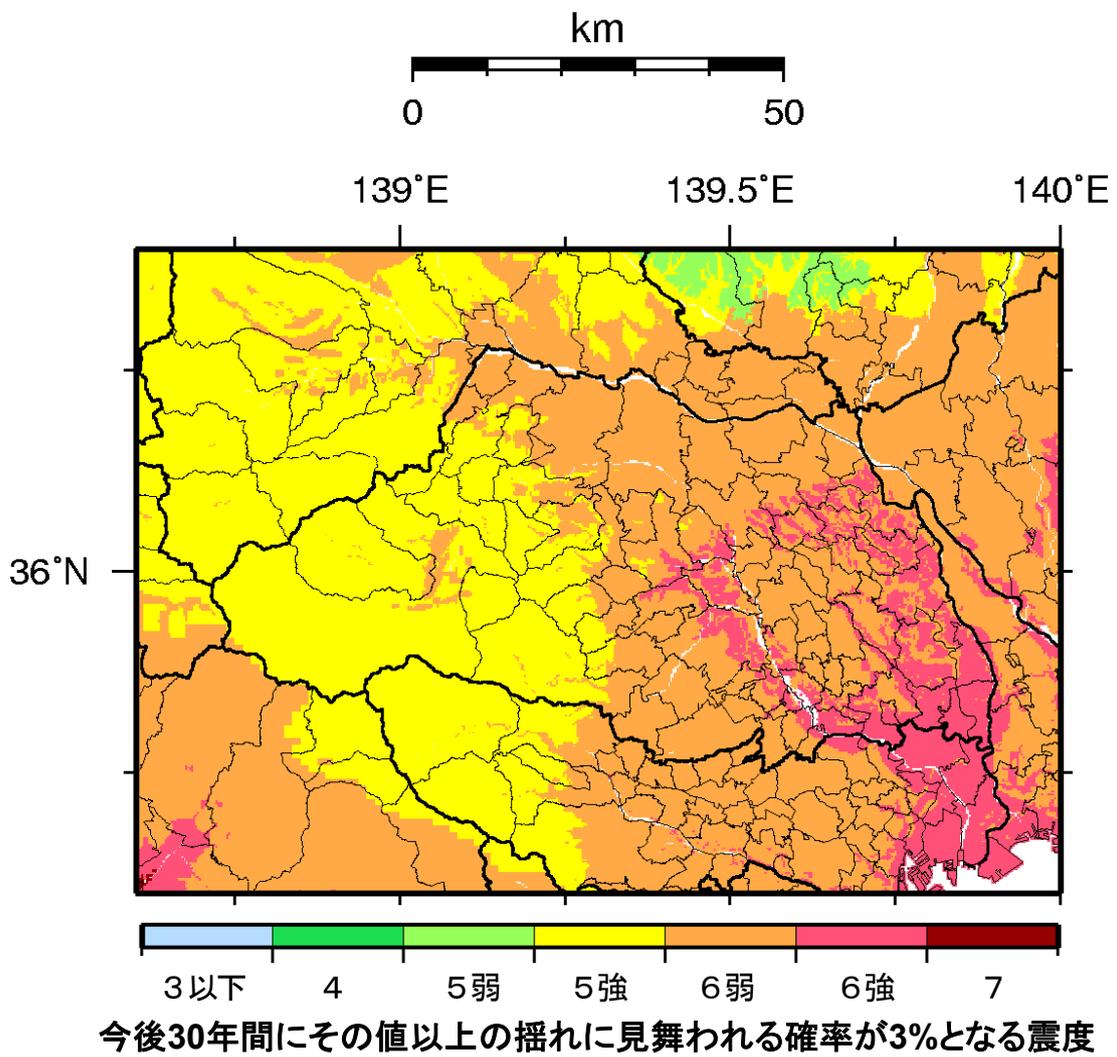
さいたま市役所：高い。

南関東で発生するマグニチュード7程度の地震（カテゴリⅡ）や、南海トラフの地震（カテゴリⅠ）の影響度が高くなっています。

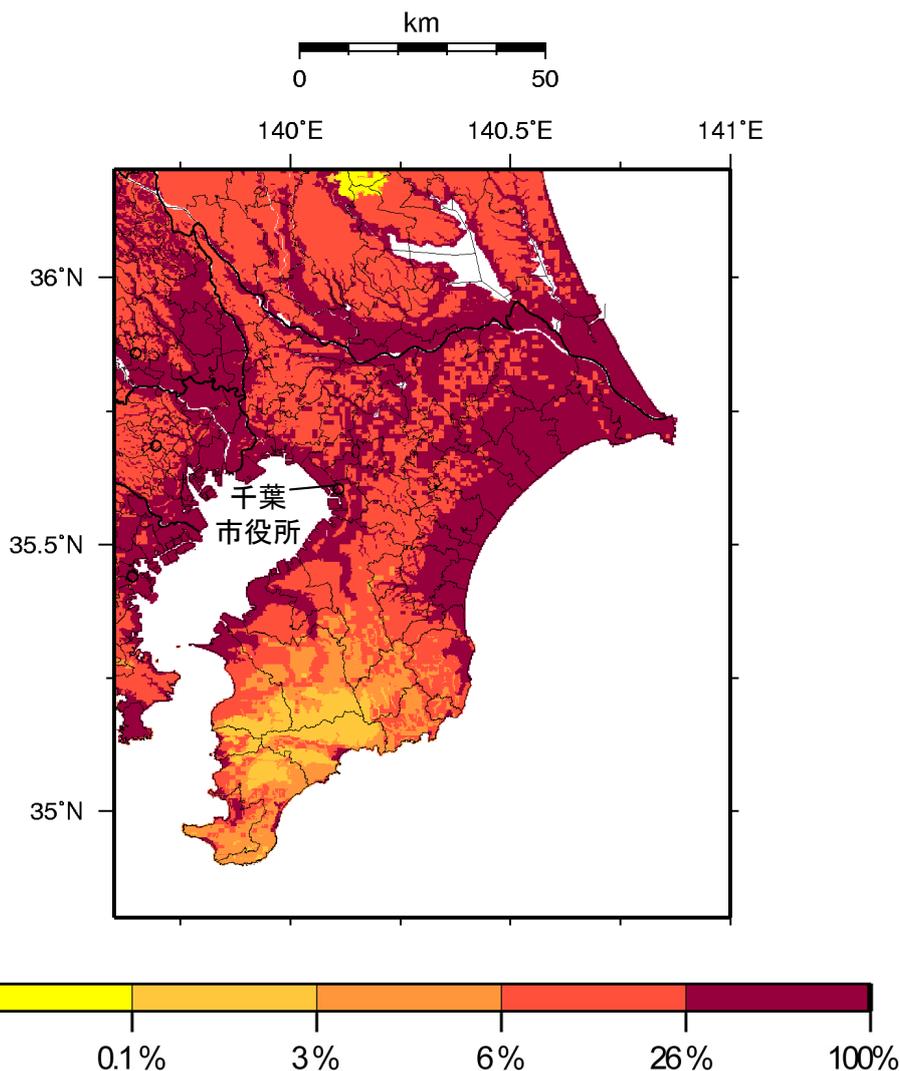


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

さいたま市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



# 千葉県



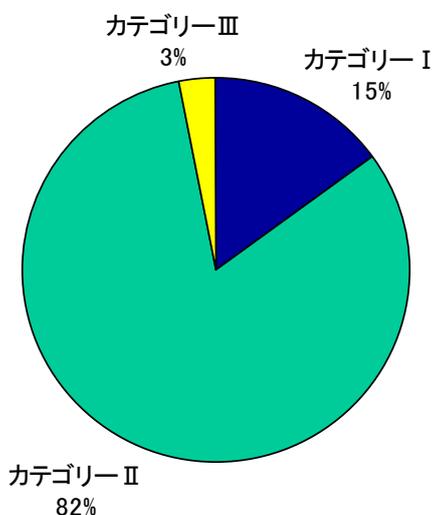
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

## 地図概況

南部の房総丘陵に比べると、その他の地域、特に沿岸低地や埋立地、河川・沼地沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

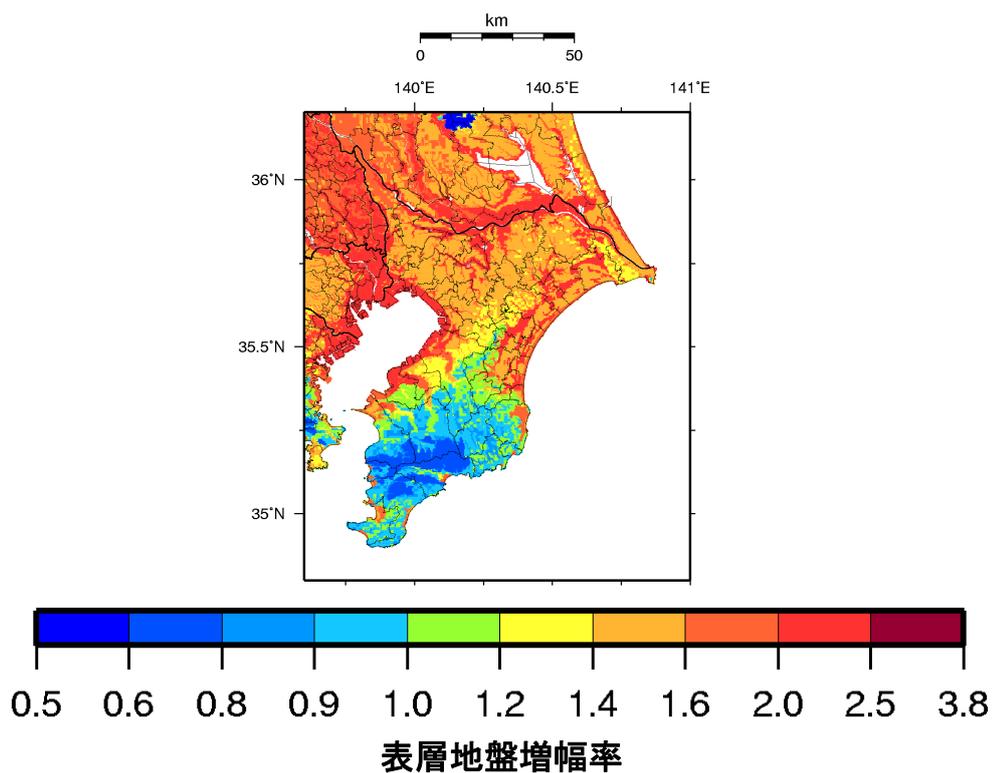
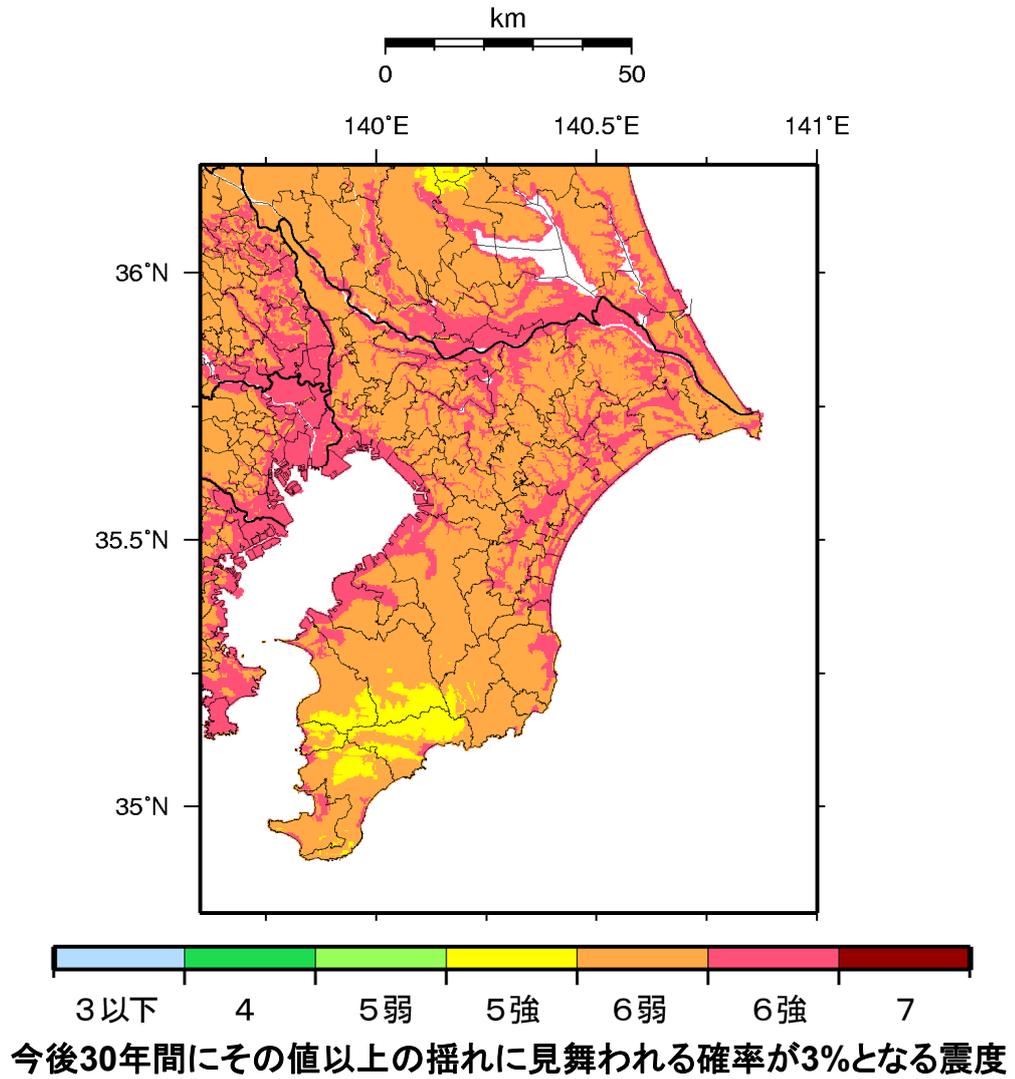
千葉市役所：高い。

カテゴリⅡの地震の影響度が最も高くなっています。南関東で発生するマグニチュード7程度の地震や、沈み込む太平洋プレート内の震源を予め特定しにくい地震によると考えられます。南海トラフの地震(カテゴリⅠ)の影響も見られます。

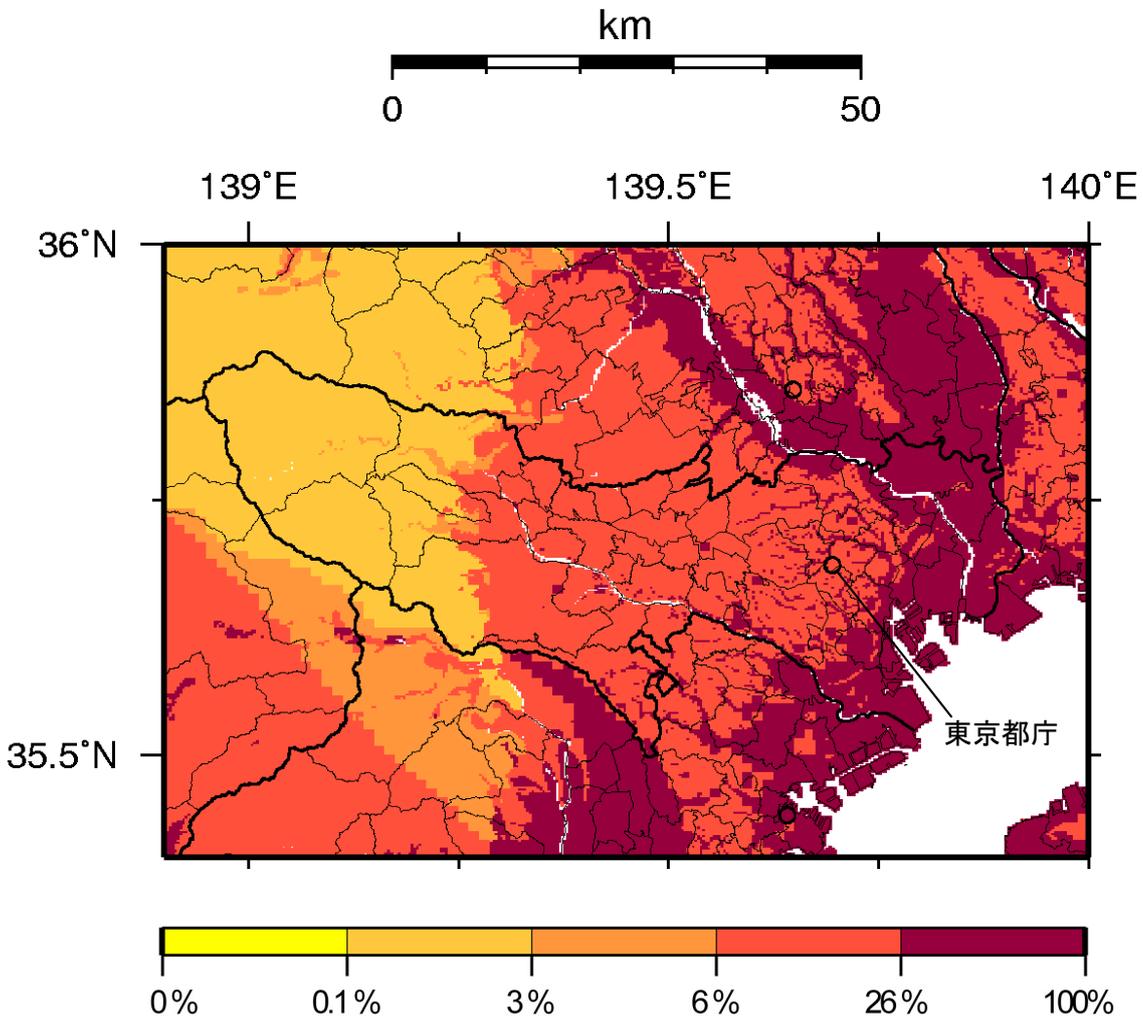


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

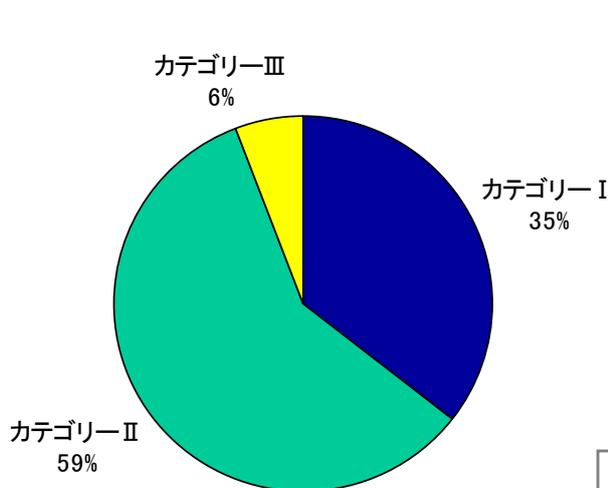
千葉市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



# 東京都(伊豆諸島・小笠原諸島を除く)



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率 (30年超過確率)



## 地図概況

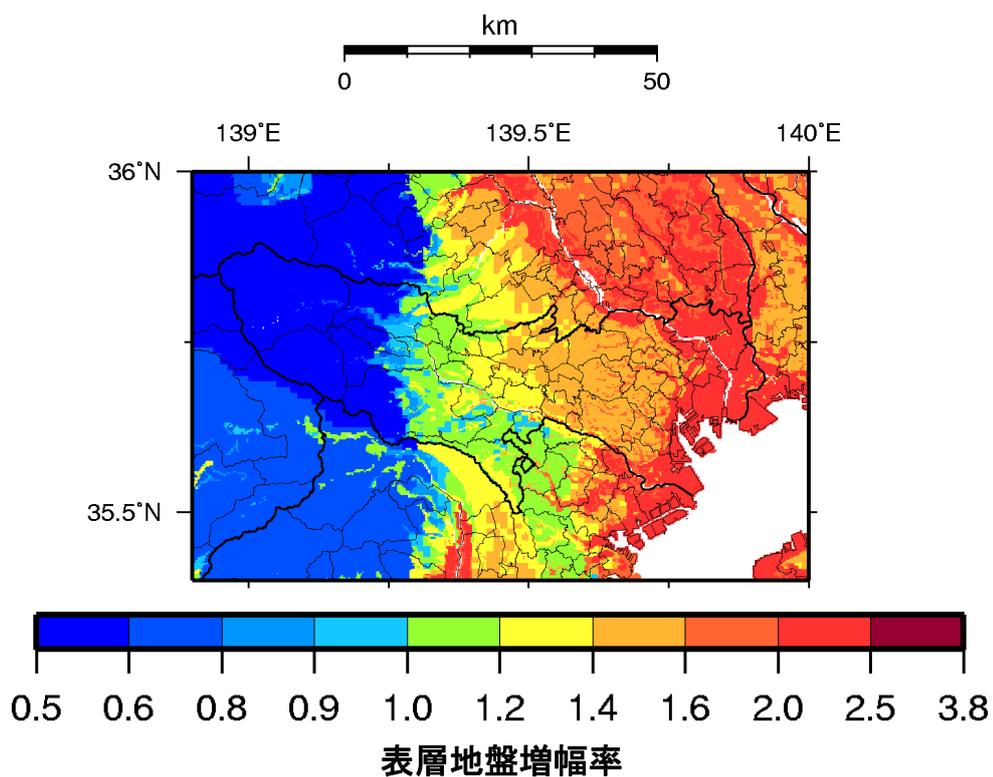
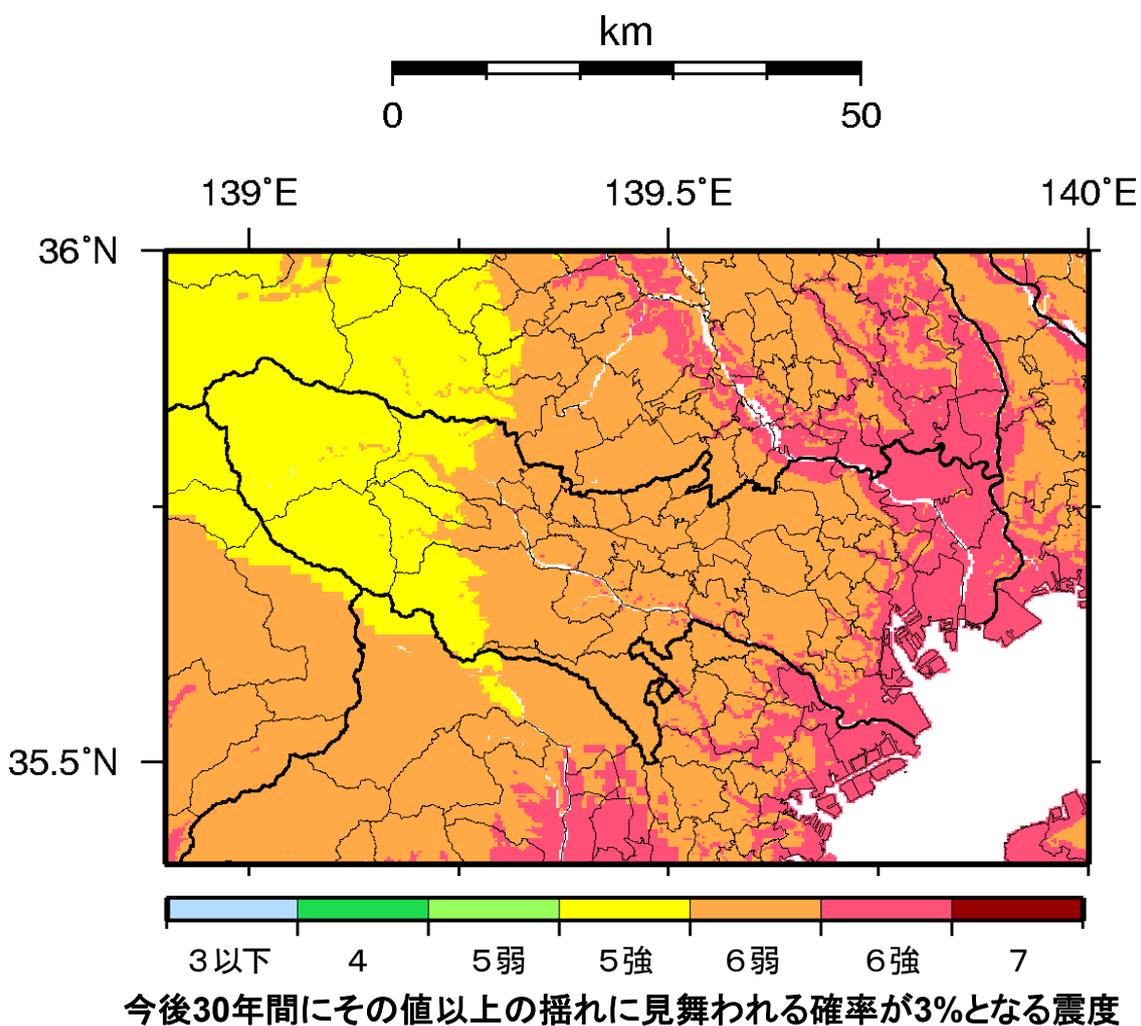
西部(関東山地)に比べると、東部(下町低地)や、中部(武蔵野台地)の中小河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

**東京都庁：高い。**

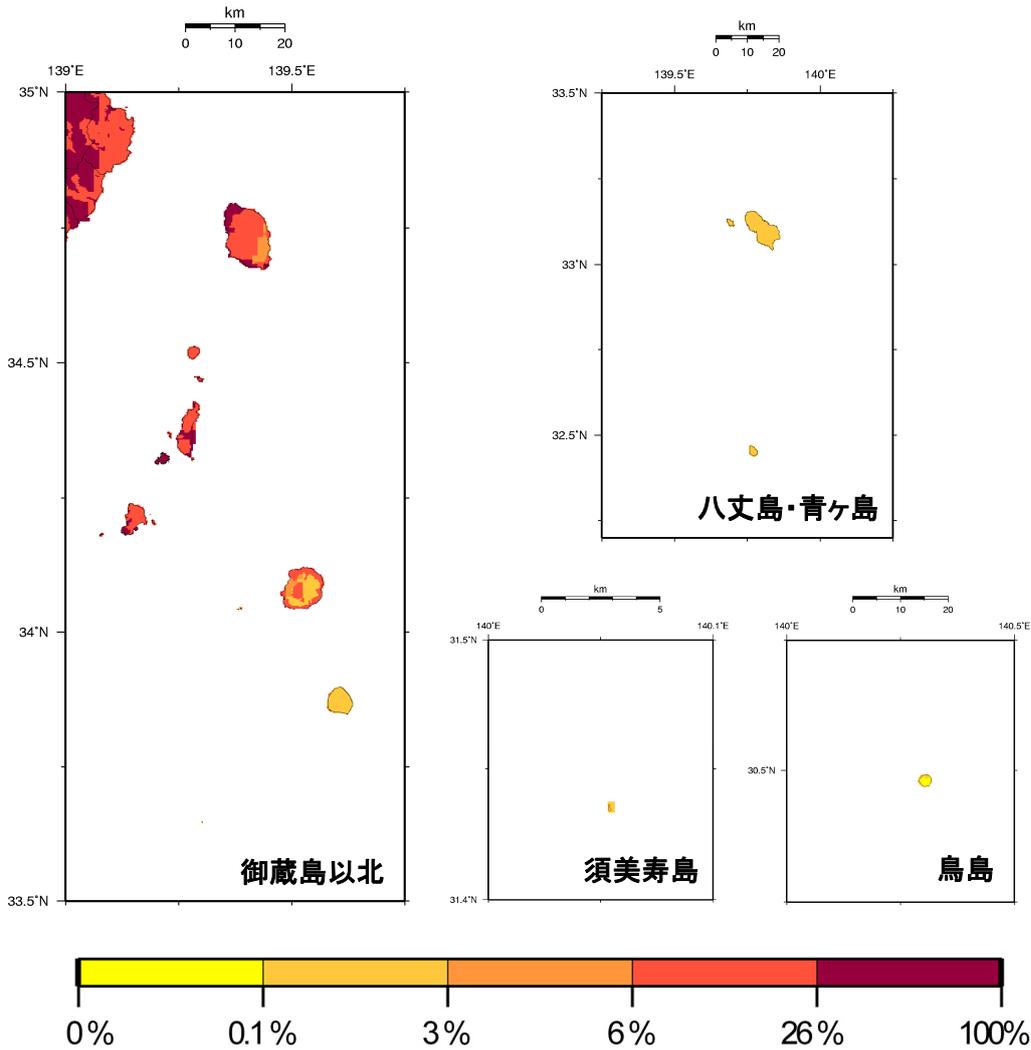
海溝型地震の影響度が高くなっています。最も影響度が高いのは南関東で発生するマグニチュード7程度の地震(カテゴリーⅡ)です。次いで、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響度も高くなっています。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

東京都庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



# 東京都(伊豆諸島)

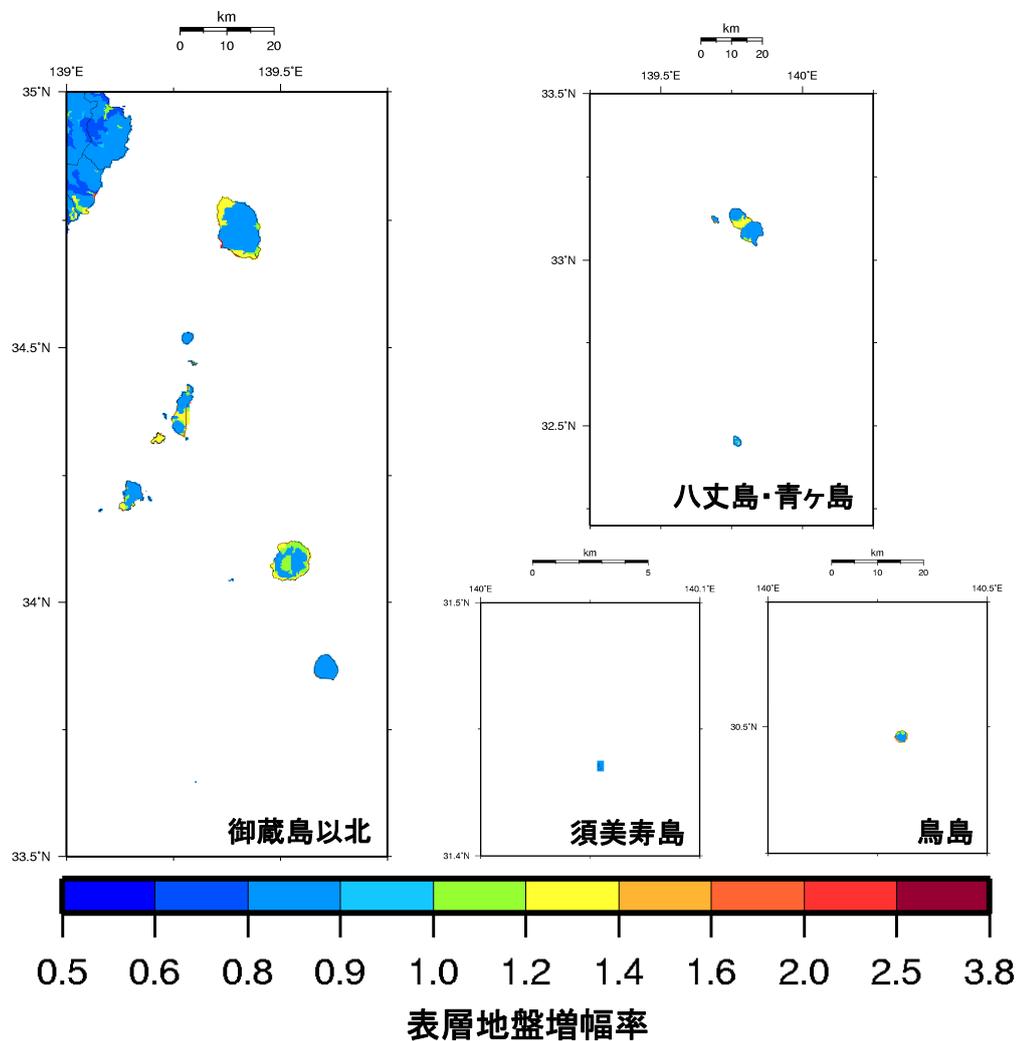
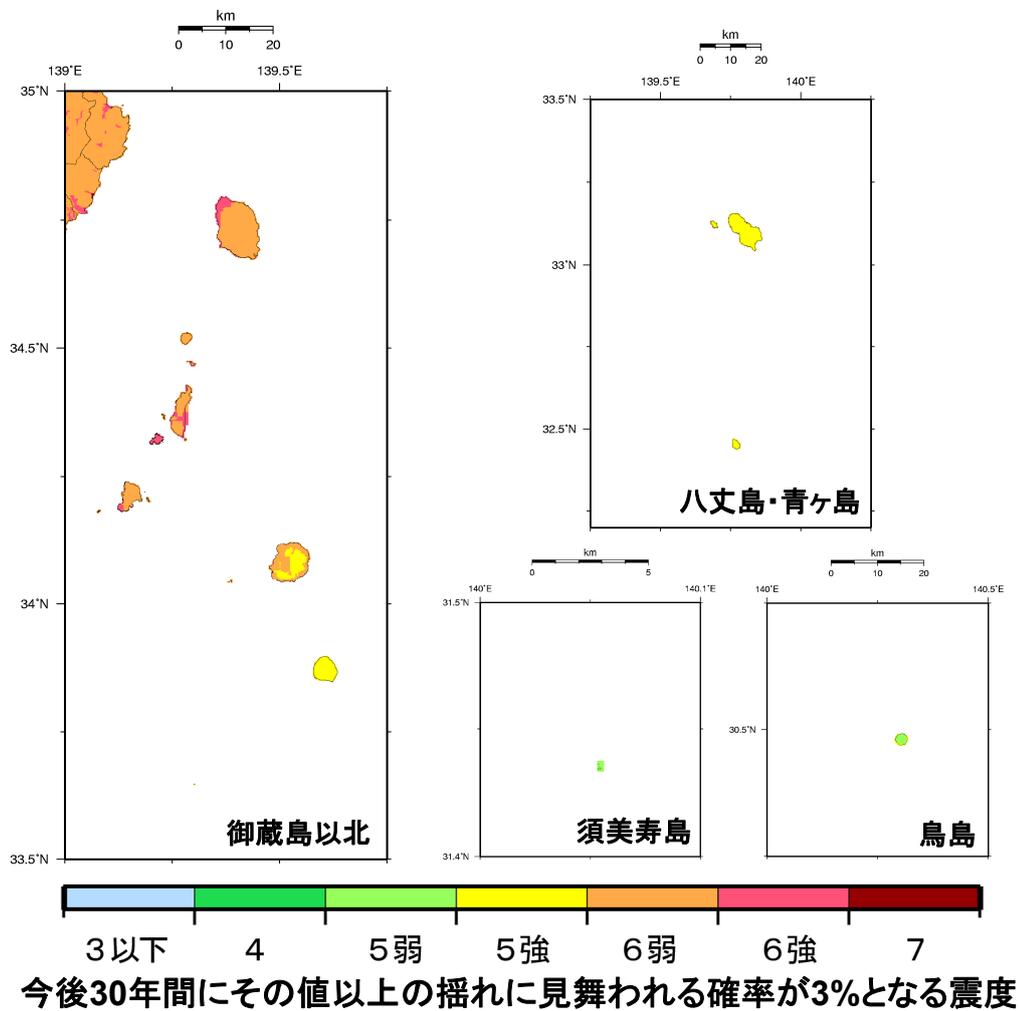


今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

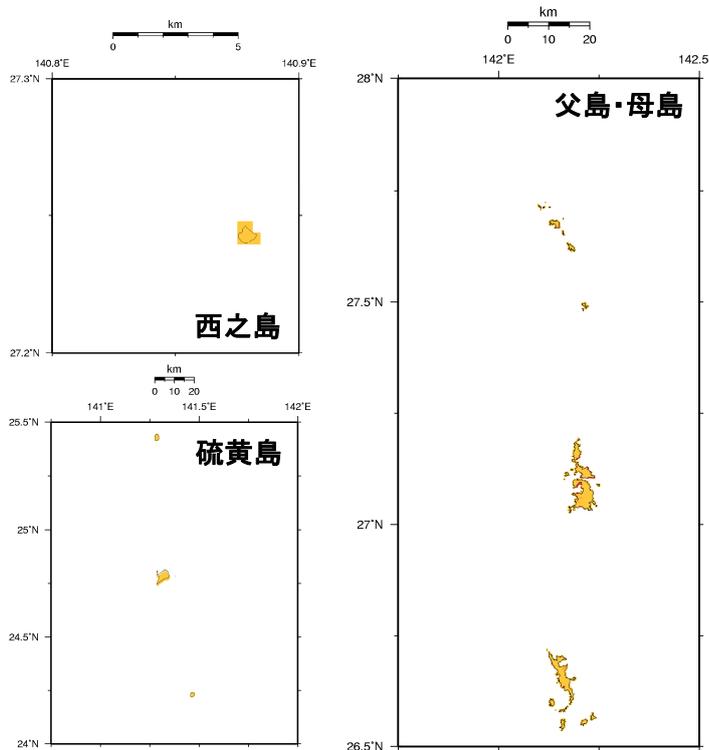
## 地図概況

諸島北部ほど、フィリピン海プレートが沈み込む相模トラフや南海トラフに近づくため、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響で、確率・震度ともに相対的に大きくなります。各島内では、沿岸低地などで地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなると考えられます。

なお、銭洲、ベヨネース列岩、孀婦岩の掲載を割愛しています。



# 東京都(小笠原諸島)

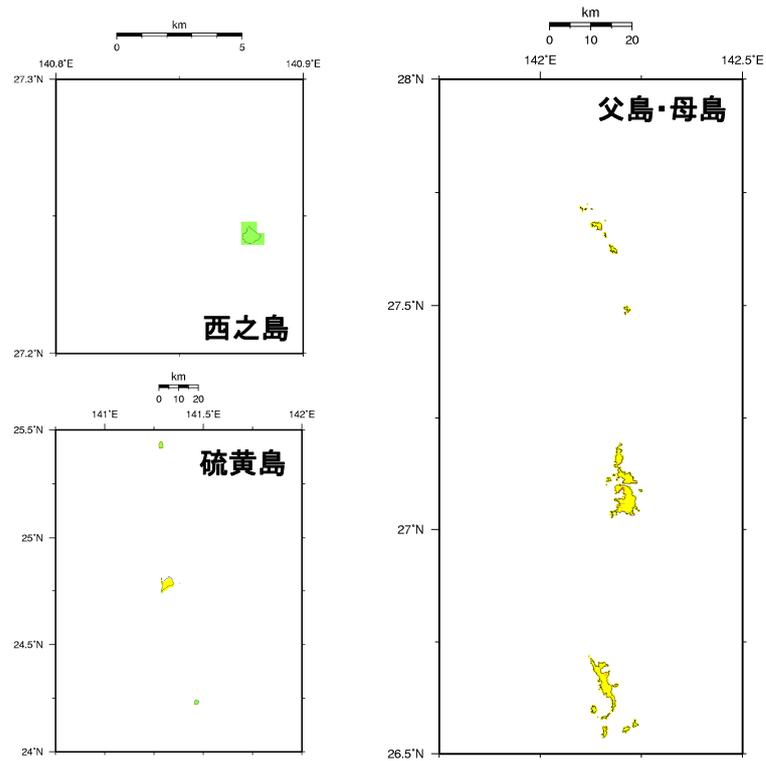


今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

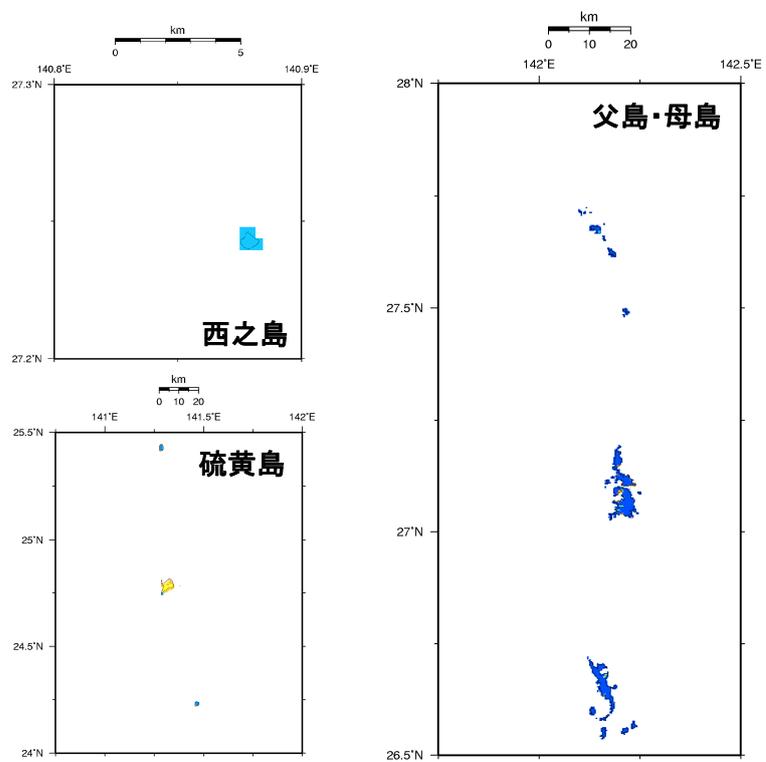
## 地図概況

各島内では、沿岸低地などで相対的に地盤増幅率が高く、確率・震度ともに相対的に大きくなると考えられます。

なお、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要なデータが整備されていないため、地図を作成していません。

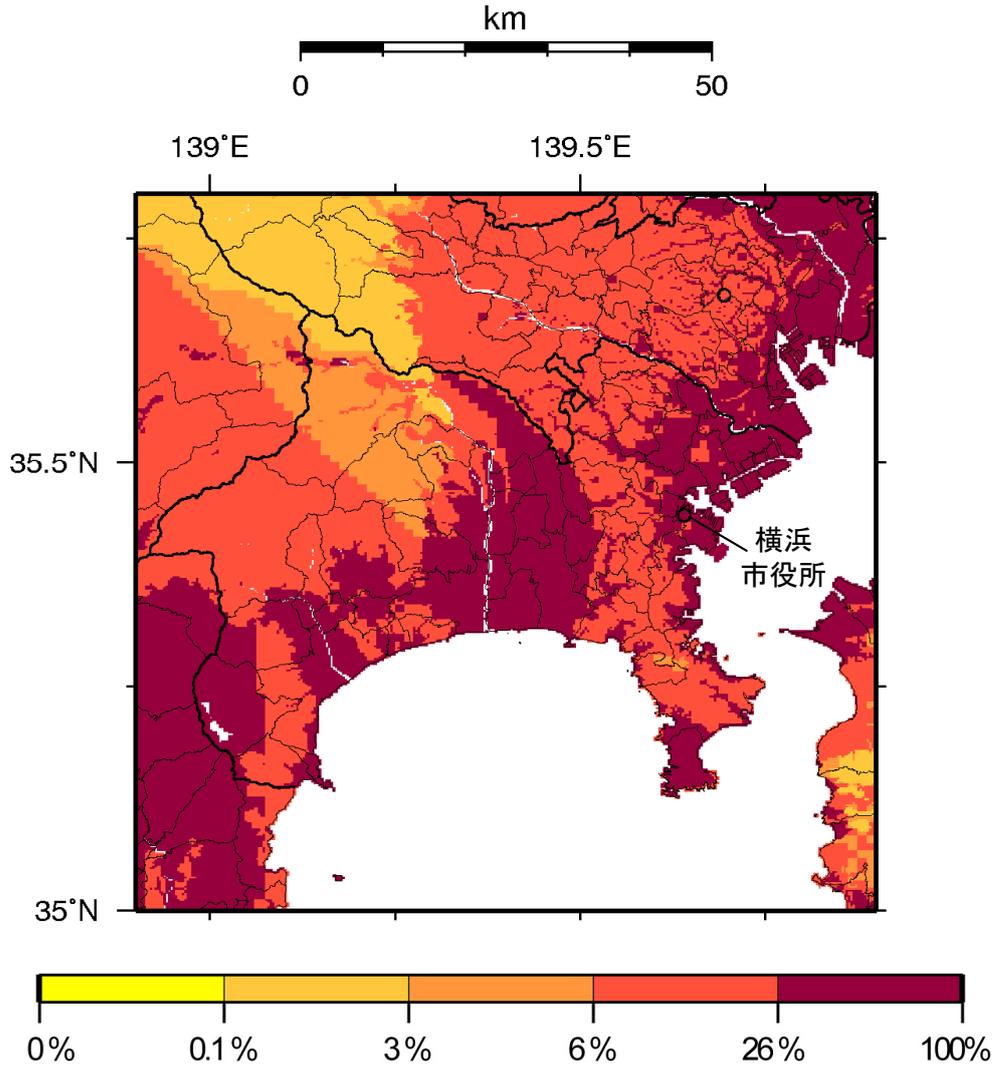


今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



表層地盤増幅率

# 神奈川県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

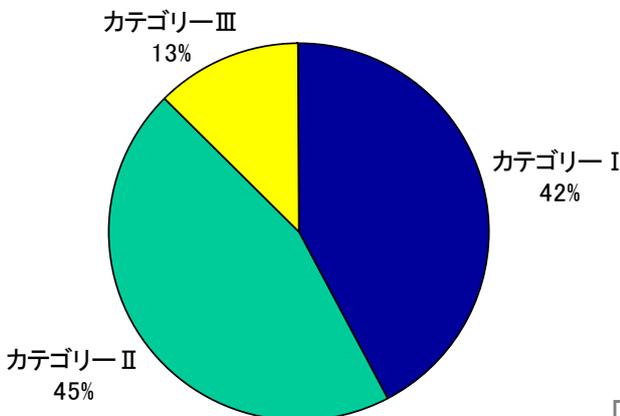
## 地図概況

山地（箱根、丹沢山地など）や丘陵（大磯丘陵、多摩丘陵など）に比べると、その他の地域、特に沿岸や河川沿いの平野部（足柄平野、相模原、鶴見川沿いの低地など）・埋立地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

## 横浜市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリⅠ）や、南関東で発生するマグニチュード7程度の地震（カテゴリⅡ）の影響度が高くなっています。これに加えて主要活断層帯のうち発生確率が高い神縄・国府津－松田断層帯や三浦半島断層群の地震（カテゴリⅢ）の影響も見られます。

カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震  
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震  
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震



横浜市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度

